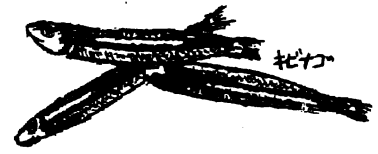


# Q&A 水俣病 2025 年版



「季刊・水俣支援」編集部

## 1 水俣病の原因は何ですか

チッソ（株）水俣工場が、アセトアルデヒドを製造する工程で、化学反応を進める触媒として投入した水銀剤が工程内で有機化してメチル水銀になりました。有毒なメチル水銀を含んだ廃液を、そのまま水俣湾や不知火海に流したため、海水中のプランクトンから稚魚を経て、それを食べる魚貝類に蓄積しました。そういった「食物連鎖」の中で水銀濃度は高くなるけれど、ほとんどは新鮮な魚のまま。それを日々食べ続けた漁民や沿岸住民が発病したのです。「奇病」として保健所に初めて届けられたのは1956（昭和31）年でした。

初期には伝染病だと誤解されましたが、水俣病は汚染魚を食べたことによる食中毒なので、患者との接触で感染することはありません。医学的には、メチル水銀が「病因物質」ということになります。

水銀は、もともと人体に有害な物質ですが、有機水銀（メチル水銀）になると、脳や胎盤など、無機水銀では入れない人体の最も大事な部分にも、体のバリアーを騙して侵入し、深刻な健康被害を起こします。メチル水銀は、徐々に体外に排出されますが、体内でメチル水銀が壊した神経細胞は元に戻らないので、障害が完治することはありません。

## 2 責任はだれにあるのですか

実験ネコの発病を隠したり、原因究明を妨害して垂れ流しを続けたチッソの責任はもちろんです。「チッソは水俣病患者に対して補償する責任がある」と、1973（昭和48）年の熊本地裁判決で確定しました。

しかし、同時に問われるのは、水俣病が発生した1950-60年代の国や熊本県の責任です。「原因がわからない」間でも、「水俣湾の魚を食べると発病する」ことはわかっていたのだから、水俣湾の魚を獲ったり売ったり食べたりすることを禁止するべきなのに、それを怠りました。

物を作るだけ作り、売れるだけ売る。そういった工業生産を推し進める通商産業省が、被害を調査する厚生省や水産庁を脅かし、脅かされた方はスゴスゴ引き下がり、原因究明を続けていた熊本大学医学部などによる食品衛生調査会の水俣食中毒部会を、任期途中で解散させてしまいます。水質規制の法律を所掌していた経済企画庁は、チッソのアセトアルデヒド工程が稼働している間は法を適用しませんでした。

結局、工場排水への規制も、工場への刑事捜査や操業停止命令も一度もされないまま。はるか後、2004（平成16）年に最高裁は「国と熊本県に水俣病を拡大させた責任がある」との判決を出しましたが、それは公式確認から48年も過ぎてからのことでした。 \*通商産業省・経済企画庁は現・経済産業省。厚生省は現・厚生労働省

## 3 患者さんや住民は何に苦しんでいますか

まず病気の苦しみです。重症の場合は、著しい運動失調・構音障害・視野狭窄などをきたし、けいれん発作を繰り返しながら亡くなる人が水俣や周辺漁村で続々と出ました。最初、脳性まひと診断されていた子どもたちが、お母さんのお腹の中で水銀を受けた胎児性水俣病の患者であることも確認されました。寝たきりの患者の場合は一日中の付き添いが欠かせず、家族に重い介護負担がかかります。

伝染病との誤解が解けてからも、チッソが殿様のように支配する水俣で、患者・家族は、当たり前の償いを求めるだけでも、チッソに弓を引き市の繁栄を妨げる者として非難されました。漁家はチッソの利害には縛られないけれど、漁村から患者が出ると出荷する魚価にも影響するため、漁協ぐるみで認定申請をしない取り決めをした地域もありました。患者は、二重三重に病気を言い出しにくい雰囲気、押し込められ続けたのです。

患者の果敢な闘いや裁判勝訴を通じて、地域の偏見や圧力は徐々に減ってきましたが、患者認定を申請したり

裁判に参加するのは「補償金目当て」と見られるので、申請をためらう人は今も少なくありません。

なお、初期の重症例ばかりが水俣病ではなく、頭痛・めまい・立ちくらみ・だるさ・しびれ・感覚低下などの神経症状は傍目にはわかりにくいので、「ニセ患者」との誤解とも患者は関わらねばなりません。

さらに、水俣病の深刻さが世間に伝わると、地域に対する偏見差別も生じます。水俣の中高生が部活の対外試合に行くと「水俣病」とヤジられることも。しかし「最近、しっかり言い返す生徒も出てきた」とのことです。

#### 4 患者さんは何人いるのですか

1995（平成7）年と2009（平成21）年、政府と国会が「解決策」を実施したものの全被害者を救うには至らず、今も新たに認定申請をする人々が続いているため、正確な患者数は判明していません。そして、未認定の申請者にとっては水俣病と認定されないことが一番の苦しみとなっています。

実はチッソは1978（昭和53）年、補償金の支払い負担で倒産寸前でした。しかし、患者への補償責任を負わせ続けるために、国は、以来ずっと、破格の条件で国のお金をチッソに貸しています。そんな事情もあり、本来、患者を早く助けるための認定制度（公害健康被害補償法）では、近年、水俣病に認定されるのは年に一人以下。ほとんどの人が「水俣病ではない」とされてしまいます。患者認定や補償を求める裁判が次頁表の通り新潟も含め9件続いています。それは「認定基準の狭さ」が主な原因です。

そもそも、患者の申請を待って審査するのではなく、沿岸住民の健康を広く調査すべきなのです。熊本県は前知事時代に、「沿岸47万人の健康調査」を計画しましたが、まだ実施されていません。

半世紀の間に、水俣病患者として正式に認定されたのは、新潟も含め、下表の一番右上にある、3000人のみ。二度の政府救済策でを受けた人が約7万人、熊本県が「健康を調査しなければ」と考えた人数が、隣の鹿児島県民も含め47万人。まさに「ケタ違い」の、3つの数字を合わせないと、健康被害の全体像が見えてこないのです。

#### 水俣病認定患者・被害者数

	熊本県	鹿児島県	新潟県・市	計
	2025. 1. 7	2024. 12. 31	2024. 11. 8	日現在
<b>■ 公害健康被害補償法（1969旧法 1974～公健法）</b>				
認定（水俣病である）→補償認定*	1791	493	716	3000
棄却（水俣病ではない）	18471	4602	1635	19708
未処分	275	1041	67	1383 X
*チッソ、関西新原告6人には補償認定調印拒否 a				
<b>■ 1995-96 第一次政治決着（5ヶ月限定受付）</b>				
判定（260万円+医療手帳）	7992	2361	799	11152 B
保健手帳のみ	842	347	35	1224
非該当	1691	575	113	2379
<b>■ 2010-12 和解・特措法（2年2ヶ月限定受付）</b>				
司法和解（不知火患者会・阿賀野患者会）	2794		171	2965 C
特措法「被害者」判定（210万円+被害者手帳）	19306	11127	1828	32261 D
手帳のみ（第一次決着からの継続者を含む）	18307	4416	189	22912
非該当	5144	4428	110	9682
<b>■ 訴訟等での賠償確定者 1978東京交渉3 1985二次訴訟4 2004関西訴訟51</b>				
				58 E
<b>合計</b> 補償（またはそれに近い一時金）受給者合計	A+B+C+D+E - a			49430
公健法認定申請中の未処分者				X 再掲 1383
公害健康被害補償不服審査会で係争中の件数 2024.6.24現在				
	39	8	13	60

#### 5 海はきれいになったのですか

水俣湾を汚染していた25ppm以上の水銀ヘドロを埋め立てて、広大な埋立地（エコパーク）が作られています。しかし、メチル水銀を含んだ24ppm以下の底質は不知火海へと薄く広がっており、埋立地に封じたままの水銀も地震などを考えれば安全とは言えません。

とはいえ、水俣を訪問して魚を食べただけで具合が悪くなることはないの、現地を訪ねる機会があれば、不知火海の風光にひたりながら、魚に舌鼓を打ってください。漁民の気持ちが少しわかるかもしれません。

なお、不知火海の漁業は回復途上。護岸工事による藻場喪失や貧栄養化の影響があるとも言われています。

# 係争中の水俣病訴訟

2024年12月現在

訴訟名	裁判所	提起年	請求内容	原告数	原告・弁護士(代表)	被告	訴訟の要点、経過	
<b>熊本県民訴訟 / 民事訴訟 (水俣病健康被害の賠償を求める)</b>								
ノーマン第二次訴訟	熊本	福岡高裁 (一院 143人) 熊本地裁	2013	450万円	1405	岡田昭人(弁護団長) 森 正直(原告団長)	チッソ 熊本県	・原告は特措法の年齢地域線引き外やその他申し出た人など (報道では「特措法訴訟」「集団訴訟」とも) ・一審は近畿訴訟は原告勝訴、熊本一院は敗訴
	東京	東京地裁	2014	95	尾崎俊之(弁護団長)			
	滋賀	大阪高裁	2014	128	藤井義孝(弁護団長)			
	新潟五次	新潟地裁	2013	860万円	161	菅川栄一(原告団長) 中村周爾(弁護団長)	昭和電工 国	

<b>国行政訴訟 (棄却処分取消～認定の義務づけを求める)</b>							
被害者互助会訴訟	福岡高裁	2015	公費補償被害者補償法による水俣病認定	7	佐藤英樹(原告団長) 山口紀洋(弁護士)	熊本県 鹿児島県	・被告知事への認定義務付けを求める。 ・2022熊本地裁で原告敗訴。福岡高裁に控訴。
倉本チズ訴訟	熊本地裁	2018		1	倉本ユキ子 (原告本人訴訟)	熊本県	・亡母チズの棄却取消と認定義務付けを求める
新潟第二次行政訴訟	新潟地裁	2019		8	内山晶(弁護団長)	新潟県 新潟市	・認定審査会で棄却された原告が棄却取消と認定義務付けを求める
認定義務付け訴訟	熊本地裁	2020		1	天草出身Kさん (原告)	熊本県	・県への認定義務付けを求める
認定義務付け訴訟	大阪地裁	2022		1	後藤達彦 藤由美 (弁護士)	熊本県	・県への認定義務付けを求める ・国の不服審査会の裁決遅延につき不作為違法を問う
認定義務付け訴訟	熊本地裁	2024		1	大戸道 智さん (原告)	熊本県	・県への認定義務付けを求める

## 6. 水俣病事件や患者・住民の闘いは、私たちの暮らしと どこでつながっていますか

東京で水俣との交流や患者支援を続けて感じたことを記します。

- \*果敢に戦う勇氣** 一次訴訟、自主交渉、関西訴訟、溝口訴訟等々、患者家族の果敢な闘いが被害者への補償救済を切り開いてきた。不条理に異議を申し立てる人々の粘り強い闘いが、私たちにも勇氣を与える。
- \*水銀汚染への警鐘** 2013年に熊本で調印された水銀規制の水俣条約。2017年9月ジュネーブ締約国会議で、胎児性患者の坂本しのぶさんが「終わらぬ水俣」を訴えた。不知火海も太平洋も微量水銀の海なので、都会に売られる魚でも、マグロ、キンメ・・・水銀値の高い魚は多い。魚食文化を維持しつつ、妊娠後期の女性に魚種を限って摂食を警告するなど、きめ細かな対策の必要性は水俣も全国も同じ。水俣病の経験は、地球規模で環境汚染への警鐘となっている。 (同じ被害者 という視点)
- \*都市の繁栄の犠牲** 塩ビやプラスチック製品、ビニールハウス、合成繊維の服。チッソが汚染も構わず量産した製品から私たちは便利や豊かさを得ている。その陰で誰かに犠牲を強いていないかと考えたい。原発が作る電気も同じ。 (都会は加害者になっていないか という視点)
- \*生命への慈しみ** 「生んでくれてありがとう」と母に言う胎児性患者。自分の水銀を吸い取ってくれた、家族の結束の絆でもあるとして「宝子」と言う母。命や家族に対する深い受け止めに教えられる。
- \*風土の豊かさと環境意識** 海や田畑に囲まれて暮らす水俣には、農業を抑える農業や、養殖でない漁業に取り組む人々がいる。全国有数の「分別ゴミ」は高品質のリサイクル資源。街ぐるみで環境首都を目指している。



川上敏行 関西訴訟 原告団長 「相模碁」を披露



先頭で闘った患者・川本輝夫さん (上) 川上敏行さん (下)

## 資料 水俣病の研究・記録・表現 抄

おもに熊本水俣病関係/下線は廉価で市販の書籍

- 医学・自然科学** 細川一・野田兼喜、伊藤蓮雄(公式確認、ネコ実験)、世良完介・鰐淵健之・喜多村正次・入鹿山且朗(熊大研究班・赤本「水俣病」)、松島義一(毛髪水銀調査)、原田正純(「水俣病」岩波新書、胎児性水俣病)、武内忠男・立津政順(熊大第二次研究班)、有馬澄雄(青林舎「水俣病」編集)、赤木洋勝(水銀分析法) 浴野成生・二宮正(中枢神経損傷説)、津田敏秀「医学者は公害事件で何をしてきたのか」、藤野紘・板井八重子(協立病院・集団検診)、宇井純「日本の水はよみがえるか」(NHK出版)、「水俣病」、岡本達明・西村肇「水俣病の科学」、斎藤恒「新潟水俣病」、横田憲一「水俣病の病態に迫る」、三浦洋・村田三郎(阪南中央病院)、高岡滋「水俣病と医学の責任」
  - 社会科学・事件運動史** 宇井純「公害の政治学」「公害原論」、渡辺京二「流民型労働者考」、不知火海総合学術調査団「水俣の啓示」、富樫貞夫「水俣病事件と法」、宮澤信雄「水俣病事件四十年」、深井純一「水俣病の政治経済学」、橋本道夫編「水俣病の悲劇を繰り返さないために」、ティモシー・S ジョージ「水俣 公害と民主主義のための闘い」(英語原著の翻訳書/未刊)、水俣病研究会「水俣病事件資料集」、後藤孝典「沈黙と爆発」、岡本達明「水俣病の民衆史」(全6巻)、原田正純・花田昌宣「水俣学講義」(1-5)、熊本学園大「水俣学ブックレット」(1-17)、野沢淳史「胎児性水俣病患者たちはどう生きていくか」、色川大吉「不知火海民衆史」
  - 文学** 水上勉「海の牙」、石牟礼道子「苦海浄土」(講談社文庫)「流民の都」「椿の海の記」「全集・不知火 17巻」、吉田司「下下戦記」「夜の食国」、高橋治「告発・水俣病事件」(戯曲)、坂本直充「光り海」(詩集)
  - 記録/患者聞き書き**「愛かなしかる命いだきて」(一次訴訟の原告証言録)、患者連合「魚湧く海」、栗原彬編「証言・水俣病」(岩波新書)、相思社「豊穡の海辺から 1-4」、松本勉「水銀みずがね 1-3」、藤本壽子「水俣みずの樹」(産廃反対・山間部の人々)、岡本達明「水俣病の民衆史」(再掲) / **患者個人史**「出月私記/浜元二徳語り」、森千代喜日記「我は雨もいとわず団草を刈る」、緒方正人「常世の船を漕ぎて」「チッソは私であった」、御手洗鯛右「命 限りある日まで」、川本輝夫「水俣病誌」、緒方正実「水俣・女島の海に生きる」 / **運動** 水俣病を告発する会「告発 縮刷版」「水俣 患者とともに 縮刷版」「わが死民」 / **政治過程** 馬場昇「ミナマタ病 30年」、吉井正澄「じゃなかしゃば 新しい水俣」、一瀬文秀「潮谷義子聞き書き 命を愛する」
  - 演劇** 砂田明、川島宏知ほか「天の魚」、砂田明「海よ母よ子どもらよ」、石牟礼道子・梅若六郎・橋の会「新才能・不知火」、詩森ろば「hg」、海の凹凸」木村夫伎子・劇工房橋の会「死んだ海」、ふたくちつよし・トムプロジェクト「静かな海へ」、風を打つ」文化座「アニマの海」 ■ **舞踊** 杉本栄子・荒馬座「2001水俣ハイヤ」
  - 映画** 鬼塚巖「水俣病 1, 2」「怒れない世界」(8mm)、土本典昭「水俣・患者さんとその世界」「水俣一揆」「不知火海」「医学としての水俣病」(三部作)「わが街わが青春」「川本輝夫 井戸を掘った人」、小池征人「水俣の甘夏」、香取直孝「無辜なる海」、佐藤真「阿賀に生きる」「阿賀の記憶」、西山正啓「のさり 杉本栄子の遺言」、加藤宣子「しえんしゃたちのみなまた」、J・デップ主演「MINAMATA」、原一男「水俣曼荼羅」
  - 写真集** 桑原史成「水俣事件」「いのちの物語 水俣」、塩田武史「僕が写した愛しい水俣」「水俣な人」、エジン&アイリーン・スミス「MINAMATA」、芥川仁「水俣・厳存する風景」、宮本成美「まだ名付けられていないものへ または、すでに忘れられた名前のために」、半永一光「ふれあい・撮るぞ」、田中史子「生 40年目の水俣病」、石川武志「MINAMATA NOTE」、小柴一良「水俣 1974-2013」、尾崎たまき「水俣物語」
  - 絵画** 丸木位里・丸木俊「水俣の図」、丸木俊・石牟礼道子「みなまた海のこえ」(絵本・DVD)、ゆきのぶ「僕らのトランクライザー2」(漫画)
  - 音楽** 真山一郎「日本の黒い水」(浪曲)、黒坂正文「もう二度と」「We can stand」、海援隊「水俣の青い空」秋吉敏子&ルー・タバキン「Minamata」、市内中学校「海」、荻久保和明「しゅうりりえんえん」、上条恒彦「花あかり」、柏木敏治「レクイエム」「カシオペアの歌」、渡辺参治(新潟患者・民謡)、坂本龍一「MINAMATA 映画音楽」
- 当会協力のウェブサイト** 「水俣を語ろう」 <https://www.mwp2021.net/>
- 定期刊行のミニコミ** 水俣病センター相思社「ごんずい」、本願の会「魂うつれ」、熊本学園大学水俣学研究センター「水俣学通信」、NPO みなまた「NPO みなまた」、ノーモアミナマタ発行委「月刊ノーモアミナマタ」東京・水俣病を告発する会「季刊水俣支援 東京ニュース」 → 下記にご連絡あれば見本誌を送ります
- .....

東京・水俣病を告発する会

2025.1.20

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル1-A Tel・Fax 03-3312-1398 y-kbt@nifty.com

## 2024. 11. 24 東京シンポジウムでの報告

松永幸一郎 加藤タケ子

記録 鈴木紀雄 写真 森山善郎ほか

「チッソと国の水俣病責任を問うシンポジウム」は15年目の第30回を御茶ノ水・連合会館で行われた。最高裁判決20年で関西訴訟関係の映像と報告の後、休憩を挟んで後半、現場からの報告として、まず、胎児性小児性患者・家族・支援者の会の松永幸一郎さんと加藤タケ子さんが「胎児性患者の近況と課題」の演題で登壇した。

### 吉井正澄もと水俣市長の追悼

はじめに、生前晩年の写真を映しながら、「ほっとはうす」等で理事も務められた吉井正澄・元水俣市長が5/31に亡くなったとの報告が加藤さんからなされた。享年92歳。来場者全員で黙とうを捧げ、ご冥福を祈った。「吉井さんは患者が街中で幸せに暮らしてゆけるよう、市長退任後もずっと応援して下さい、私たちに『利他』を教えて下さった。最後まで患者側に立ち、特に胎児性患者を応援し続けてくれた。関西訴訟最高裁判決後に作られた環境省懇談会でも委員として『環境省よ。泥まみれになれ!』と、認定制度の変更を訴え続けた方だった。」と偲んだ。(追悼寄稿→21p)

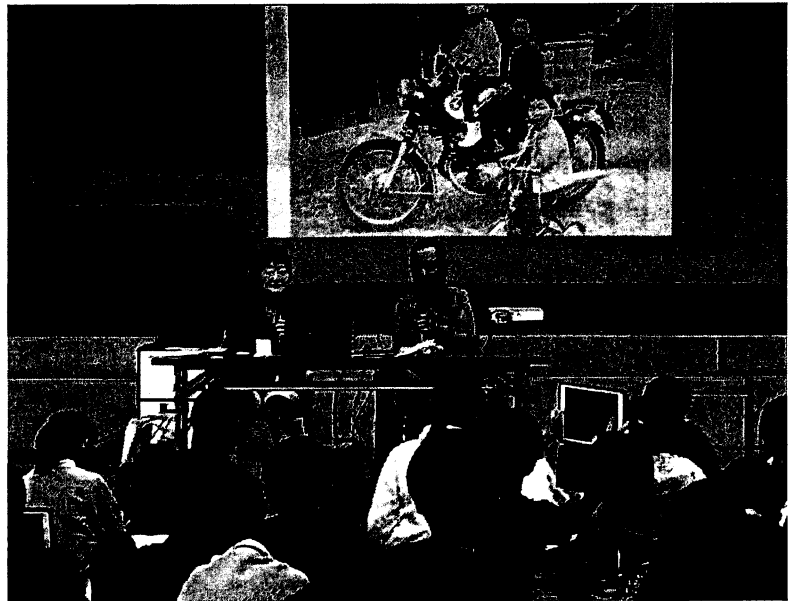
松永さんからは、「将棋2段に認定された。昨日、新しい将棋会館へ行ったが、対局結果は散々。でもトイレはバリアフリーになって快適だった。」と、羽生善治名人、藤井聡太名人直筆の認定証を持つ自身のスクリーン投影写真を背に近況報告。

### 東京・世田谷で「伝えるプログラム」

加藤 昨11/22(金)には、東京学芸大附属小学校へ行き、5年生への「伝えるプログラム」を行なって来た。「患者に会うのがとても恐かった」という正直な感想文が印象的で驚いた。事前学習で発症した猫の映像を見ていたようで、「患者さんに会いたくないと思っていたけど、ほんとにごめんなさい」とか「もっと水俣病のことを知りたくなった」といった感想もあった。きっと実際に患者に会い、人間として前向きに生きている姿に接することで心を揺さぶられたのだと思う。

松永 最後にはサインをお願いされた。「これからも仲間と一緒にがんばって生きてください」というメッセージももらった。

加藤 この「仲間」という言葉は私たちのキーワード。人はひとりでは生きられない。胎児性の患者たちが仲間とともに長い間、支え合って闘い続けて来たということが伝わったかな、とうれしく思っている。



### 原田正純医師の出身地・鹿児島県さつま町

加藤 原田正純先生から「僕が水俣病に深く関わったのはお母さんたちのおかげ、一言挨拶がしたいので連れて来て欲しい」と頼まれて、原田先生が亡くなる1か月前に、金子雄二さんと長井勇さんのお母さんをお連れしたのが2012年5月23日のことだった。

鹿児島県さつま町にある原田先生の母校、盈進小学校(元・平川小学校)で、『ようこそ、先輩』というNHK番組を作るはずだったが実現しなかった。さつま町では原田先生を顕彰して漫画の本を作っている。このたび人権学習ということで10/30に盈進小学校を皆で訪ねて来た。鹿児島県で水俣病を伝えることがなかなかできていなかったが、今回は町の担当課職員も2名見学し、今後、水俣病を伝える事業を広げるきっかけになったらと思っている。鹿児島でも自分の祖父母が水俣病であることを知らない子供たちも多い。これは将来に禍根を残す

ので、もっともっと水俣病のことを伝えていかななくてはいけない。

また、今日もこの会場に学生さんが来てくれているが、中央大学のゼミでの講演も行なってきた。

### マイクオフ事件～環境大臣再懇談を契機に

5/1 マイクオフ事件の関連で7/8に環境大臣が訪水して懇談した。そこで、グループホーム『おるげのあ』、患者の心の安心の場、障害福祉サービス、補償ランクの低さ、認定制度、健康調査といった6項目を骨子とした要望書を提出したが、未だに返答はない。

この大臣懇談に初めて参加してカミングアウトした方が2名いる。ひとりには浜付重俊さん。余命宣告を受けながら最後の力を振り絞って、公害等調整委員会（公調委）と補償ランク変更交渉をして検診も受けていた。命あるうちの結論を求めたが、残念ながら彼は11/1に亡くなった。熊本日日新聞が5/1に彼の特集を組んでいる。浜付さんは氷山の一角、松永さんも含め、人生を奪われたたくさんの人々の低額補償をめぐる闘いがこれからも続いていくと思う。

もうひとり、藤枝静香さんは母親とともに認定申請したが、ふたりとも棄却。行政不服審査請求をしたが、母親は1月に亡くなり、彼女は車椅子生活を送っていてヘルパーの介助が必要である。熊本県との交渉では、認定申請、行政不服の手続きにおける、患者のあまりに大きな負担について訴え、被害をちゃんと訴えられるようにしてほしいと要望。また、ヘルパー介助の必要性がなかなか認められないなど、水俣病への対応の遅れを指摘して改善を求めた。

大臣は金子雄二さんにも面会した。金子さんは、自分の水俣病被害を強く認識して、介護保険サービスを選択しないで来ているのだが、入浴サービス自己負担等の不利益を被っている。こうしたことの改善や、24時間サービスを貰いたいという要望をこれまでもいろいろな人に伝え要望しているが、その後につながらないということが続いている。

加賀田清子さんは大臣に対して「明水園の仲間が外出できないままである。コロナ禍が収まって来ているのになぜ？面会制限が続いているのはなぜ？」と訴えた。数年前から前知事に訴えても、外出機会が奪われ、面会制限が解除されないま

まだ。これは重大な人権侵害である。が、こうした実感、認識が我々の方でも薄いのではないか。明水園の内から声が挙げられない中、次の行動を考えていかなければならないと考えている。



老若男女の来訪者が絶えない金子さんの部屋

## 東京でのひととき



左から 森山、加藤、安川、野澤、松永さん



千駄ヶ谷 将棋会館で

水俣病救済に尽力、町出身・原田医師の縁

患者らと児童90人交流

さつま

母親の胎内でメチル水銀の影響を受けた「胎児性水俣病患者」らによる講話が10月30日、さつま町の盈進小学校であった。町出身で水俣病研究の第一人者・原田正純医師（享年77）の半生を描いた漫画をきっかけに同校と佐志小が初めて企画。児童約90人は患者と交流を深め、困難を抱えた時に前向きに生きる大切さを学んだ。



「困難を抱えながら自力強く生きる患者の存在を知って」と話す加藤タマ子さん

さつま町の盈進小学校

「困難な時も前向きに」



故原田正純さん

講師は全国で水俣病の語り部活動を展開する一般社団法人「さほう・未来・水俣」（熊本県水俣市）の長井義さん（61）と町出身の井原さん（61）ら4人。長井さんは水俣病で就学免除となり、水俣市の病院に分校ができるまで学校に通えなかった。12歳でやっと小学1年生になり、21歳で中学を卒業した。学校に行けたことが人生で一番の思い出と涙を流した。

15年前から症状が悪化し

歩行困難になった松永幸一郎さん（61）は「仲間や趣味の将棋が心の支えになった。今では大会で何度も優勝するほどの腕前です」と笑顔を見せた。同法人の加藤タケ子代表理事（74）は「水俣病患者ではなく名前を覚えてほしい。心の距離が縮まるコツ」と訴えた。講話後、患者の周りに児童が自然と集まり交流を交わした。佐志小5年池田選手さんは「水俣病は暗いイメージだったが、ユニークで魅力的な人たちがいた。もっと仲良くなりたい」。町出身の小5年藤原選手さんは「つらいことがあっても、人生を楽しむことを諦めない姿はカッコいい」と話した。

水俣病救済に尽くした原田医師の研究が胎児性水俣病の発見につながった。講話は「患者の生の声を聞き、公害の及ぼす影響と人権について考える機会をつくりたい」と学校側が同法人に依頼した。（鹿島彰彦）

水俣病研究の生涯描く さつま町、原田正純さんの漫画製作 2024.4.29 南日本新聞朝刊

さつま町は、水俣病研究の第一人者で町出身の医師原田正純さん（享年77）の生涯をたどる漫画を作った。水俣病の原因究明や被害者救済に尽力した足跡に触れ、環境や郷土の大切さも説いた半生を描く。町が23日に発表した。

原田さんは1934年生まれ。熊本居住時に空襲で母を亡くし、父の故郷の同町に移住。旧平川小学校、宮之城中を卒業。後に熊本大医学部に進み、61年から水俣病調査を始めた。

漫画は原田さんの地縁者にも聞き取りし、史実に基づき製作。医師として水俣病に向き合う姿勢や苦悩を描き、晩年には自然にあふれた地方の魅力を伝えようと、旧平川小で講演を計画していたエピソードを盛り込む。原田さんゆかりの写真や年表も紹介する。

B6判107ページの非売品で、B&G財団の助成金を活用した。町内全小中学生に配る。町図書館などで閲覧でき、町ホームページでも公開予定。町教委社会教育課の佐藤真人主任は「困難に直面した時にどう向き合うかなど、考えるきっかけにしてほしい」と話した。（山田天真）



# 札幌ライフ\*旋風が水俣のマチを駆け抜けた！

\*NPO 法人 札幌障害者支援センター ライフ

(法人のホームページから転載)

1988年、ひとりの脳性マヒの障害者が印刷会社の経営に参加しました。

その後、ひとり増え、ふたり増え、障害のある人の働く場として「障害者ワープロフロア」を開設したのがライフのはじまりです。障害の種別を超え、「働きたい」と願う人の気持ちを繋ぐため活動を続けてきました。

これからも、障害のある人をはじめ、社会的に不利な状況にある人たちも含めた 共に働き、共に生きていく「社会的事業所」づくりをすすめていきます。

札幌ライフの皆さんが、2024年10月11日から14日まで、水俣を訪ね、滞在されました。「みんなお互いさまで生きていこう」の呼びかけに賛同し、水俣に賑わいと爆笑が弾けた4日間でした。やってきたライフの面々の11名の個性に圧倒されながらも、「きぼう・未来」の面々もよく飲みよく食べよく語りでありました。初日、夕方到着から、しっかりとビールで乾杯し、明けて翌日は「水俣病から宝物を伝えるプログラム」でお出迎え。



長井勇さんは、短期入居先から入浴タイムもポイント投げて、身体維持の手続きのみ済ませタクシーで駆け付けた。「胎児性水俣病による障がい」を理由に自宅の前の小学校には就学免除で行かれなかった。「8歳で入院した湯之見リハビリテーション病院内、水俣第一小学校の分校に12歳で入学できたことは人生の宝物」と語れてよかった。おまけに、刺身、焼肉、コーラと楽しい3日間だった。

続く、永本賢二さんは最初からユモアあふれる突っ込みで場を和ませ、「父はチッソの労働者、5トンクレーンがあったチッソ梅戸は幼少期の原風景」と語る。水俣市資料館語り部で活躍中。

松永幸一郎さんは、将棋2段の自慢話を語りながら、10年前に車椅子生活になった水俣病の症状悪化に対する補償アップの申請の度々の棄却の実態を語り、苦しんでいる患者の厳しい現実と終わっていない水俣病を報告。

圧巻は、現在は水俣で活動する石澤さんの語りで伝えてもらったライフ35年の歩み。ライフのメンバーと掛け合い、数字と年代をあやちゃんに確かめながら笑えた。それにしても、札幌の夜の街を車椅子で彷徨しながら、飲み屋をバリアフリー化したこと、街を耕す人々は町の中に連帯を広げて「施設はいやじゃ！」のすごい人数のデモの行進と度肝を抜かれた。ただし、その姿は、32年前にカシオペア会から始まり「ほっとはうす」を自力で開拓し「きぼう・未来・水俣」へとつなげてきた、水俣での実践とも通じる。「どんなに重い障がいを持っていても地域で仕事をして生きていく」と皆で宣言した26年前に重なった。

再びライフ旋風が舞うならば、札幌で自立生活を実践する人々から伝授されたヒントから、「グループホームは自宅」と宣言できることを学び、24時間の障害福祉サービスの徹底した実践とチッソ公害補償医療で複数の医療ケアを受け療養生活をしている金子雄二さんを紹介する。

人生's ライフは、いつの間にか、みんなの身体と心を躍らせて誰にも大好評。この流れに乗ったような加賀田清子さんの、「関根君が、"弟"の大作さんと涙の再会でき、西川上人と坊主頭の3兄弟チームができてよかった」「2回目の北海道行きの夢が語れた」「金子君と会えたらいいね！」という笑顔の感想で締めくくります。 報告：加藤タケ子

発行 2025年1月25日

水俣病胎児性小児性患者・家族・支援者の会／一般社団法人「きぼう・未来・水俣」

〒867-0051 熊本県水俣市昭和町2-4-8 西田ビル1F

Fax 0966-63-6741 Tel 090-7156-2298

[katotakeko@gmail.com](mailto:katotakeko@gmail.com) (事務局 加藤)

水俣病胎児性小児性患者・家族・支援者の会 東京支部

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北4-39-4-1 清水方 [cuatro-gatos@pop21.odn.ne.jp](mailto:cuatro-gatos@pop21.odn.ne.jp) (支部長 清水)